

【試験結果速報】

一般社団法人 農民連合食品分析センター 様

2020.03.02

一般財団法人 北里環境科学センター

1. 試験名: 次亜塩素酸水によるウイルス不活化試験

2. 試験内容: 次亜塩素酸水によるネココロナウイルスの不活化効果を評価した。

3. 試験品: Active Water Sanitizer GERMGO

4. 試験方法概要:

<供試ウイルス>

ネコ腸コロナウイルス (Feline enteric coronavirus, WSU 79-1683株)

<ウイルス不活化試験>

- ① 試験品 9 容量にウイルス液 0.1mLを混合し、所定時間作用させた。
- ② 作用後、チオ硫酸ナトリウム加緩衝液を加え、試験品のウイルスに対する作用を停止させた。
- ③ ②の液を感染価測定用試料の原液としてTCID50法で感染価を測定した。

5. 試験結果

5-1. ネココロナウイルスに対する不活化試験 (作用時間 1 水準)

試験品	作用時間		感染価対数減少値
	0 (初期)	15 秒間	
対照 (PBS)	1.3E+07	1.5E+07	0.0
Active Water Sanitizer GERMGO		1.6E+01	5.9

使用ウイルス液の感染価: 8.9E+07 TCID50/mL

検出限界値: 1.3E+01 TCID50/mL

感染価対数減少値: $\log(\text{初期感染価} \div \text{作用時間後の感染価})$

欧州標準試験法などでは、感染価対数減少値が 4 以上でウイルス不活化効果ありと判定しています。今回の試験では、5.9 であったことから、ウイルス不活化効果ありと判定されます。